

相良村の山並み・川並みの風景をつなぐ橋

- 背景に広がる相良村の緑豊かな山並みや、川辺川の美しい川並みの風景に呼応する、**柔らかく弧を描くりニアで伸びやかなかたち**です。
- 農村集落の風景に調和する、**「屋根付きの木橋」**のような建築です。
- 高床形式により、災害リスク対策・高い視点からの眺望や周囲からの視認性の高い**「復興のシンボル」**をつくります。
- 筋交いや方杖のない、木柱のみの構造形式によって**フレキシブルで拡張性に優れた計画**を実現します。



相良村の魅力を活かした地域活性化につながる外構配置計画

キャラクターの異なる4つの〈おか〉と〈ひろば〉

- 交流スペースの村道側には築山を活かした植樹帯**〈緑のおか〉**を設け、川側は芝生広場からそのまま連続した散歩道のような**〈芝生のおか〉**とすることで、交流スペースは**緑に囲まれ、川に開かれた地域の集会場**となります。
- 駐車場から直接つながる**〈イベントひろば〉**にはキッチンカーも入りやすく、マルシェなどの様々なイベントに適した場所となります。また、水辺体験ゾーンの川側には、鮎焼きやバーベキュー、ワークショップなどができる**〈交流ひろば〉**を設けます。

駐車場～広場～交流拠点がスムーズにつながる

- **多自然川づくり**の考え方と連動して、駐車場から川辺川までを、連続した地形でつなぐことのできる建物配置・ボリュームを検討します。
- 交流拠点は一部を**高床形式**とすることで、建物で水辺の風景や環境を遮蔽することなく、**駐車場から〈水辺広場〉へスムーズにつながります。**
- 駐車場からは、**緩やかなスロープのエントランスブリッジ**で交流拠点へとスムーズにアプローチし、そのまま**〈芝生広場〉**や川へ緩やかにつながります。



〈イベントひろば〉から交流拠点につながるスロープ

緑のおか

隣接の墓地への視線と交流スペースへの西日を遮蔽する植樹帯

芝生のおか

ランドスケープと一体化した、散歩道のようなアプローチで、川辺の活動と建物をつなぐ

イベントひろば

駐車場に隣接した広場はキッチンカーなどの地域のイベントに利用することができる

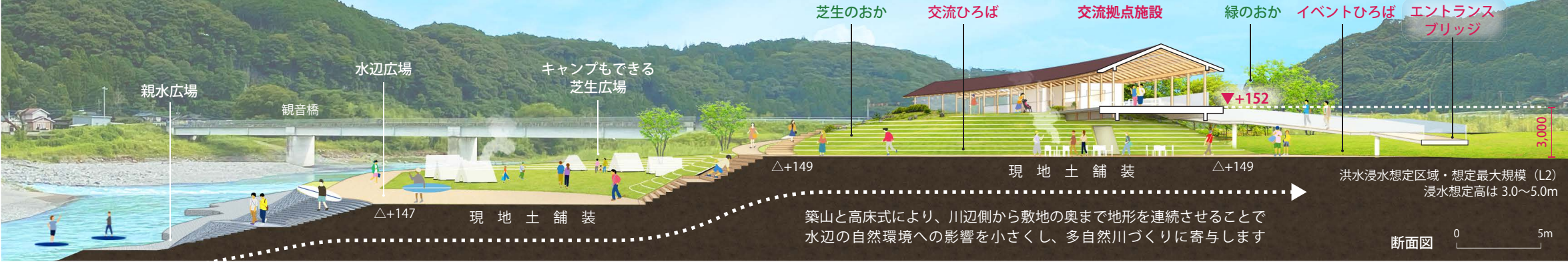
交流ひろば

水辺体験ゾーン・倉庫と連動し、人々の交流と体験の場所となる

〈イベントひろば〉から川辺川への橋（ゲート）と〈屋根下ひろば〉



駐車場から〈水辺広場〉・川辺川までスムーズにつながる断面計画



■交流拠点施設計画 についての提案

交流拠点施設の地域交流や維持・継続性を考慮した平面計画

高床形式による復興・地域のシンボル

- 災害時に最低限の安全確保ができるよう、**築山**をつくり、**現況地盤面から +3m の高さ**で、強固な人工地盤を形成する**高床形式の交流拠点**とします。

※洪水浸水想定区域・想定最大規模（L2）における
浸水想定高は 3.0～5.0m

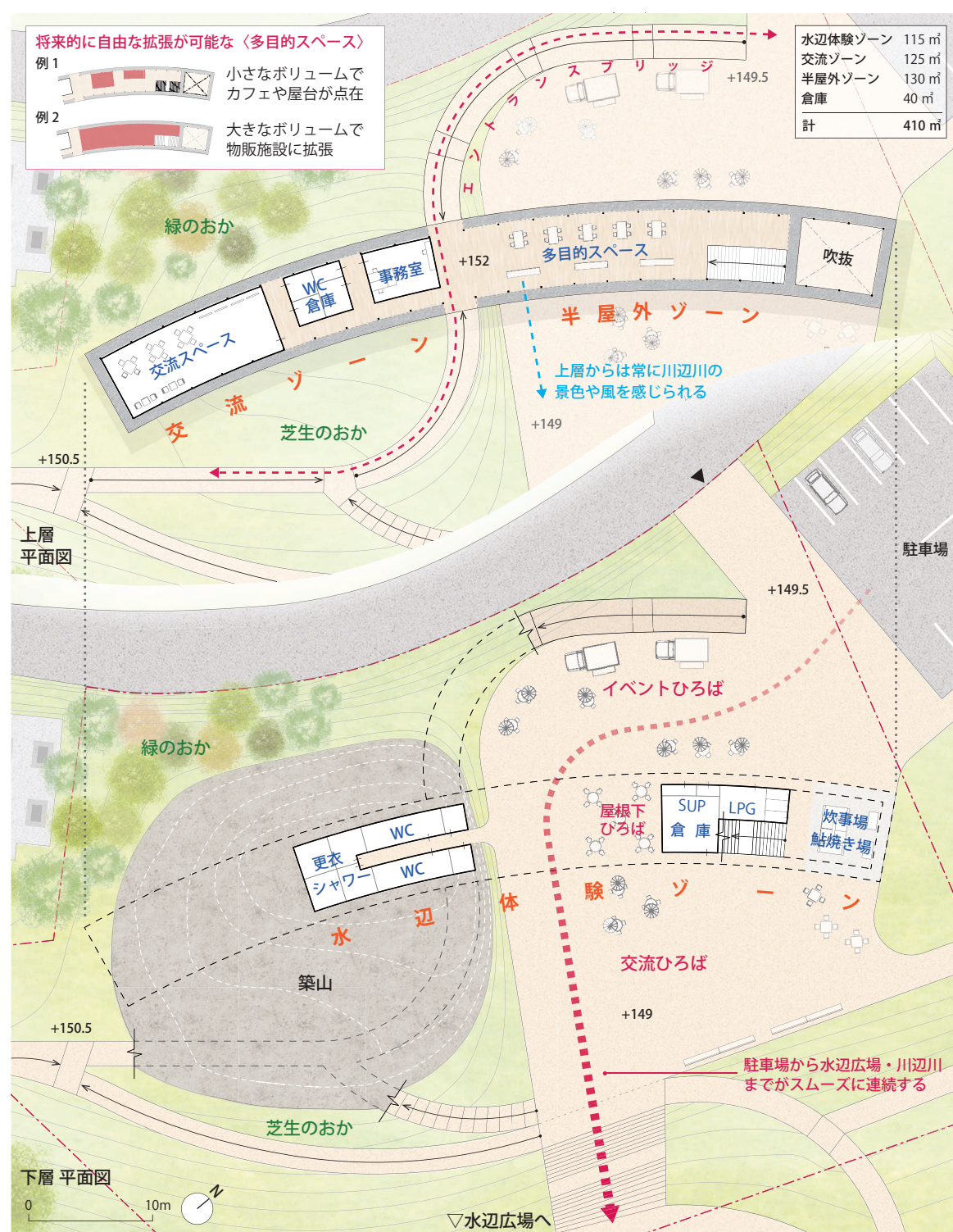
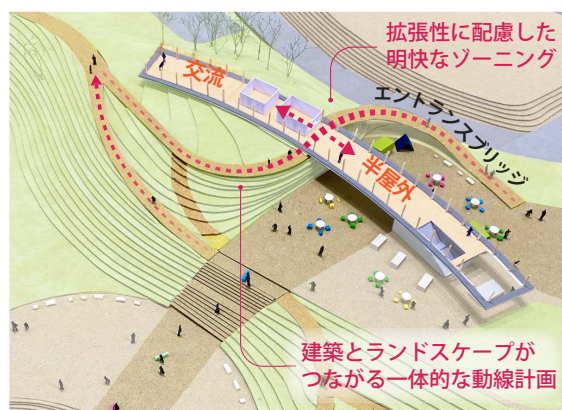
基本計画案



- 相良村の農村集落の風景に調和し、地域の憩いの場所となる「**屋根付きの木橋**」のような建築です。
- 山並みや川並みの風景に呼応する、**柔らかく弧を描くリニアなかたち**は、施設へ訪れる人々にとって、観音橋から**視認性の高いシンボル**となるとともに、水辺側の**風景との親密さ**を生み出します。
- 高い視点から、**川辺川への眺望が常に感じられる**〈交流ゾーン〉〈半屋外ゾーン〉をつくります。

将来的に多様な使われ方に対応できるフレキシブルな平面

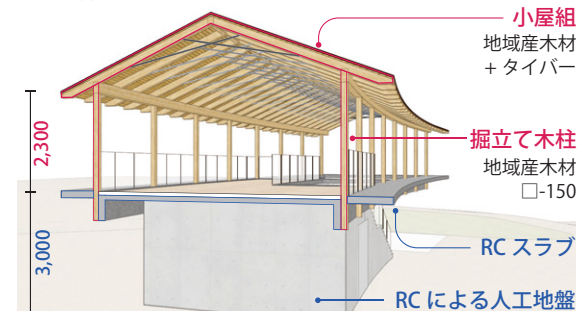
- 交流拠点は、**筋交いや方杖のない**木柱のみによる構造形式により、半屋外の多目的スペースは将来的なテナントのニーズに沿って、**自由な間仕切り壁**をつくること可能な**拡張性の高い計画**です。
- 高床の下層は、**万が一の浸水時にも、損傷しない**よう RC 造による倉庫やトイレ等を設けるのみとし、それ以外を「**屋根下ひろば**」とします。
- 交流拠点は**将来の機能拡張にも配慮**し、〈エントランスブリッジ〉から、〈交流ゾーン〉〈半屋外ゾーン〉を左右に振り分ける**明快な動線計画**とします。



県産木材の活用及び構造安全性の確保

筋交いや方杖のない拡張性に優れた木造掘立柱架構

- 一部地中に埋まる高床の下層のボリューム及び、上層のスラブは、耐久性に優れた RC にて計画し、**強固な人工地盤を形成**します。
- 小屋組みは、**地域産木材の積極的な活用**のため、基本材長を 4m 以下に抑えた、**シンプルな切妻架構**にて計画します。



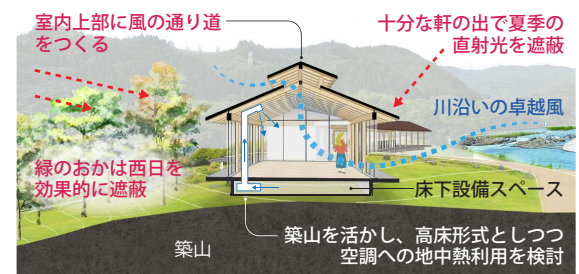
強固な人工地盤と拡張性に優れた木造掘立柱架構

- 上層の床スラブには、木柱が貫通する小孔を設け、木柱をスラブとその下部の梁に緊結します。柱脚の固定度を十分に上げることで、将来的な機能の拡張性に配慮した、**筋交いや方杖のない、木造掘立柱架構**を立ち上げます。

ユニバーサルデザイン・環境・省エネ・コスト

高床形式と築山 リニアなかたちを活かした環境デザイン

- 高床形式とすることで、**防犯性や通風性**の向上に加え、地表面からの**雨水の侵入リスクを低減**します。
- リニアなかたちを活かして、**川沿いの卓越風**を建物に取り込むことで冷涼な空気を導き、風の通り道によって心地よい室内環境をつくりだします。
- 交流スペース西側の〈緑のおか〉に落葉樹を植樹することで、**西日対策の緑陰**を形成します。
- 根切り土や建設時に発生する土を活用して築山をつくることで排出土をなくすとともに、**築山の地中熱を利用して環境負荷の低減**をはかります。



- 柱や梁は**同寸法の製材の繰返し**により、経済的で合理的な構成とすることで、**イニシャルコストの縮減**を図ります。
- 築山の高低差をスロープでつなぎ、**バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮**するとともに、さまざまな風景に出会う散歩道のような場をつくります。

概算工事費：190 百万円